



あいさつと制服

次長 目崎 淳

長年の担任生活から業務が変わり1年半が経過しました。そこで一番に始めたことは、毎日、7時50分頃から校門に立ち、初等部生などと挨拶を交わすことです。一年半前の初等部だよりで「登校の様子から」という題で記事を書いたことは、記憶にしっかりと残っています。初等部生は、入学して担任の先生やお世話をしてくれる6年生（初等部では、入学式の翌日より行われる、6年生による1年生の朝の支度のお世話が伝統となっています。）から、校門での一礼の仕方を教わります。まず校門で帽子を脱ぎ、立ち止まって一礼をします。丁寧な子は警備員の方にも一礼をします。私が校門に立っていると「おはようございます！」と気持ちのよい挨拶をしてくれます。日ごとにその人数も増えているような気がします。つられて近くにいる上級生や下級生も、元気よく挨拶をしてくれます。そして「今日も一日よろしくお祈いします」と一言添えて再度一礼してから教室に向かう子も少なからずいます。1・2年生の時に教わったことを、学年が進行しても続けているということに頭の下がる思いです。（初等部のやくそくP5(1)登校・下校より）

まもなく11月になります。冬服に衣替えして1ヶ月が経とうとしています。挨拶をするとき、私は自然と相手の顔や目を見ます。そのときの初等部生の反応は様々です。笑顔で挨拶をする子。私の目を必ずといていいほどしっかりと見て挨拶をする子。急いでいるのか、せわしなく通り過ぎる子。帽子を脱ぐときにマスクを落としそうになる子（丁寧なので私はとてもよいと思っています）。一礼の後で私に話しかけてくる子。先日私が持っていた薬缶はどうなったのかを確かめに来る子、等々。——と同時に服装も目に入ってきます。ここ数日はずいぶん冷え込む日が続いていますので、ブレザーを着用する子も増えつつあります。初等部の制服は、ブレザーの上から襟を出す仕様です。なかなか上手く着こなすことが難しいようで、襟が中途半端のまま校門までたどり着く子もいます。ぜひ、家を出る前に鏡の前に立たせるとか、おうちの方が整えてあげるなどしていただくと、お子さんも正しい制服の着用方法を学ぶことができるのではないかと思います。

担任をしていた頃に、子ども達に「制服を着ていることの意味とは何か？」を尋ねたことがあります。小学生ですから、いろいろな答えが返ってきます。ですので『初等部のやくそくP5』の内容を、子ども達と読み合わせをしました。ここにはまず、こう書かれています。

***校外においてはいつも「私は学園の代表者」という自覚を持って行動できるようにご協力ください。**



【校門前の花壇を寄せ植えで整えていただきました】

学園の代表者ですので、通学途中に多くの人が鎌倉女子大学初等部の制服を目にすることでしょう。ですから、素敵に着こなせるようになってほしいと願っています。それと同時に、その制服を着ている間は、学園の代表者として恥じない行動が求められます。『品位ある初等部生になるために』の「乗り物でのマナー」には、次のように書かれています。

- **友達と大きな声で話したり、通路を歩き回ったりしません。**
- **お年寄りや、体の不自由な人が乗ってきたら「どうぞ」と席をゆずります。**
- **ランドセルやかさなどの持ち物が人に当たらないように気をつけます。**（一部抜粋）

善い行いは、習慣化することによって、はじめて身につくものだと思います。こういったことが自然と振る舞える人になれるよう期待しています。